

JFE

TODAY

JFE GROUP TODAY
2017



挑戦。柔軟。誠実。

JFE グループは、
常に世界最高の技術をもって
社会に貢献します。



JFE GROUP
TODAY 2017

「JFE TODAY」の題字の「TODAY」は、
鉄鋼事業における鋼の製造工程を、
「JFE」はエンジニアリング事業における
環境プラント・橋梁、造船事業における船を
それぞれイメージしています。

CONTENTS

企業理念・行動規範	1
グラビア	3
CEOメッセージ	17
JFE ホールディングス株式会社 代表取締役社長 (CEO) 林田 英治	

JFE グループの未来に向けた挑戦	21
—第5次中期経営計画の達成に向けた各社の取り組み	
JFE スチール	23
JFE エンジニアリング	31
JFE 商事	39
ジャパン マリンユナイテッド	45
人材力の強化	47

CSR活動	51
主要経営指標	53
企業情報	55
マネジメント体制	57

JFE STEEL

その意志を受け継ぐ者へ

企業の技術力は、そこで働く人々の高い志と情熱に支えられています。

誕生以来、多くの若手世代が入社しているJFE スチールでは、双方向のコミュニケーションをより活性化させ、そのDNAを人から人へ確実に受け継いでいます。



製鋼プロセスにおいて溶けた鉄の成分調整を行う鍋の内側には、高温に耐えられるようレンガが敷き詰められています。煌煌と光る鍋の内側を目視し、レンガに劣化や亀裂がないか、瞬時に判断する必要があります。このような高い技能をベテランから若手に着実に伝承しています。

JFE STEEL

ここから始まる新たな物語

JFE スチールでは、第5次中期に主要な上工程の設備更新・能力増強が完了します。
国内外で鉄鋼事業の環境が大きく変化する中、新たな時代に向け、
世界トップレベルの生産拠点のさらなる安定化とコスト削減を追求していきます。

JFE スチール会社紹介映像を全面リニューアル

当社HPから動画を視聴できます。
<http://www.jfe-steel.co.jp/movie>



YouTubeでも
視聴できます



東北復興の架け橋

宮城県気仙沼市の市街地と離島の大島を結ぶ、東日本最大級のアーチ橋「大島大橋」の一括架設が行われました。東北初の離島架橋は、本土との交通手段が船舶のみであった地元住民の方々の悲願であり、復興のシンボルです。



再生可能エネルギーが未来を変える

大分県佐伯市のセメント工場遊休地に建設したバイオマス発電所が、2016年11月に稼働を開始しました。出力は国内最大級の5万kW、パームヤシ殻が主燃料です。JFE エンジニアリングの再生可能エネルギー技術が、低炭素社会の実現に貢献します。



大阪港を渡る600トンの巨大栈橋ジャケット

津製作所で製作された大型栈橋ジャケットが大阪港に設置されました。

大阪港は「国際コンテナ戦略港湾」であり、コンテナ船の大型化に対応するコンテナターミナルの拡充を図っています。JFE エンジニアリングは各地の港湾の国際競争力強化に貢献します。



JFE SHOJI TRADE

日本と世界をつなぐ、 ナショナルスタッフの力

経済成長とともに、飛躍的に鋼材需要が伸長するアセアン地域。
そのビジネスの最前線に立つJFE 商事グループは、スピーディーにお客様のニーズに応え
タイムリーに鋼材をお届けするサプライチェーンを構築しています。
そして、そのビジネスを支えるのが現地で活躍するナショナルスタッフ。
彼らの力こそが、世界でビジネスを切り拓くJFE 商事グループの原動力です。



次世代型省エネ型超大型原油タンカー (VLCC) 1番船引き渡し



ジャパン マリンユナイテッド(JMU)は、2016年6月に有明事業所で建造していた、海外船主向けの次世代省エネ型超大型原油タンカーの1番船を引き渡しました。

本船は、次世代省エネ型タンカー“G-Series VLCC”の記念すべき1番船です。スポットトレード向け最適船型として累計35隻以上の建造実績を誇る2百万バレル型VLCCの系譜を受け継ぎ、最新の造船基準を適用しつつ、燃費性能の大幅向上を目指して開発しました。VLCCとしてはコンパクトな船型ながら、浅喫水時の載貨重量最大化を追求し、マラッカ海峡通航を含む東西トレードに対応できるフレキシビリティを持っています。

JMU独自の技術である、最新鋭の省エネ装置(ダクト、フィン)を付加するとともに、実航海性能の向上を目的とした船首形状を採用しています。また、最新低燃費のMAN-G型エンジンと高効率の大直径プロペラの採用により、従来船を大幅に上回る性能を達成しました。

なお、バラスト水処理装置(BWMS)を標準装備し、環境にも配慮した仕様となっています。

【本船概要】
主要寸法:全長330.0m × 幅60.00m × 深さ29.35m × 喫水21.58m
載貨重量:302,652トン
総トン数:156,501
航海速度:15.8ノット

すべてのステークホルダーの皆様へ

JFE ホールディングス株式会社
代表取締役社長(CEO)

林田 英治

■ごあいさつ

皆様には平素よりJFE グループの活動に対しまして温かいご理解とご支援を賜り、心より御礼を申し上げます。

■業績の概要

2016年度はグループの中核である鉄鋼事業にとって、前年度に続き非常に厳しい年となりました。この2年間は「中国」と「原料価格」に翻弄された年であったと言えます。中国経済減速の影響を強く受け、中国鉄鋼産業が輸出を大幅に増やした結果、国際市況は低迷を続け、ここ十数年来の最低を記録するに至りました。

2016年中盤から中国国内の景気刺激策の効果により、中国の鉄鋼輸出は若干減少してきており、国際市況も緩やかな回復基調に移行しました。しかし夏以降、鉄鋼の主要原材料である石炭(原料炭)価格が急騰し、鉄鋼事業は大幅なコスト上昇に直面しました。このため期中で業績予想を下方修正し、皆様には大変ご心配をおかけしました。

その後、販売価格の改善に精力的に取り組み、グループ全体では最終的に前年度を上回る業績を上げることができ、配当も前年度並みの水準を維持することができました。しかしながら、この利益の中には在庫評価益などの一過性の利益が含まれており、実態としては2016年度の業績は前年度を下回りました。



難局に直面する鉄鋼事業。
グループの総合力が試される

このような環境下、鉄鋼事業、および鉄鋼事業との関わりが深い商社事業は厳しい事業環境が続いていますが、経営の効率化や販売価格の改善に精力的に取り組み、今年度の業績改善を目指しております。

エンジニアリング事業に関しては、ここ数年堅調な国内事業の収益を基盤として積極的に海外事業を展開してまいりましたが、東南アジア地域におけるインフラ整備などのプロジェクトは思ったほどのスピードでは進んでおりません。結果、海外での受注は中期計画を大幅に下回っておりますが、このような状況下において重要なことは、着実に一つひとつのプロジェクトを進めていくことと考えております。

持分法適用会社である造船事業のジャパン マリンユナイテッドは、商船需要が停滞期に入り船価も低迷する中、収益的にも苦戦を強いられておりますが、コスト構造を改善し収益の確保に努めております。

■鉄鋼事業について

このようにJFE グループを取り巻く環境は厳しい状況が続くと考えておりますが、当社としては中核である鉄鋼事業の収益改善に最大限の経営努力を傾注する所存です。

具体的な施策としては、積極的な設備更新、人材育成・技能伝承など中期経営計画で掲げた施策を着実に進めており、課題であったコークス炉の改修も2018年中に完了する予定です。これによってコークスの完全自給化が可能となり製造コストの大幅な低減が実現します。

経営環境は厳しくとも設備の更新を積極的に進め、当社グループの強みである「技術」と「商品」に磨きをかけ、お客様から頼りにされる鉄鋼会社を目指してJFEブランドの拡充に努めてまいります。

また、人材に関しても技能伝承プログラムの充実や人材の多様化などを通じて、将来に向けた基盤整備を進めてまいります。特に、「ワークスタイル変革」を経営の重要課題と位置付け、すべての社員が働きがいを感じられ、その持てる能力を最大限発揮できる環境を整備してまいります。

■エンジニアリング・商社事業について

エンジニアリング事業はここ数年順調に成長を続けており、電力・上下水道分野を中心に運営型事業の展開も進んできております。ここにきてひとつの踊り場に直面している状況ですが、焦ることなく着実な成長を目指してまいります。

商社事業は鉄鋼事業の影響を色濃く受けることとなりますが、辛抱強く収益改善に努めてきた中国・アジアでの加工サービス事業が成果をあげつつあり、この路線を確実に進めていくことが当面の課題だと認識しております。



着実に磨いた技術力・人材力を、
次なる成長の礎に

■財務的な課題

個々の事業の収益改善に加え、投資を着実に進めながらグループとして財務体質の改善を進めるために、資産圧縮などを通じてキャッシュフローを改善し積極的な設備投資と財務改善を両立させてきました。その結果、借入金を増加させることなくバランスシートが強化され、今中期の財務目標のひとつである、D/Eレシオ50%程度も射程圏内に入っております。

厳しい経営環境のため収益目標（経常利益、ROE）の達成時期は少し後ろにずれ込むかもしれませんが、その達成に向けた行動はゆるぎなく進めてまいります。

現在検討中の次期中期経営計画においても、財務の健全性を意識しつつ、企業の成長のための積極的な投資と株主の皆様へ報いる還元を両立を図ってまいります。

■コーポレートガバナンスの充実

コーポレートガバナンス（企業統治）充実のため、2015年度に新たに社外役員（社外取締役および社外監査役）が過半数を占める「指名委員会」「報酬委員会」を設置しました。社外役員の意見を経営に反映させることにより、公正性、客観性および透明性をより充実させる努力を継続しております。

また、2016年度より取締役会全体の実効性についての分析・評価を進めてきており、実効性評価において指摘のあった取締役会の構成の一部見直しを行うことと致しました。グループの中核である鉄鋼事業のJFEスチール社長は、従来から当社の取締役に就いておりましたが、指名委員会で議論を重ね、コーポレートガバナンスの一層の向上のために、JFE エンジニアリング、JFE 商事の2事業の社長も当社取締役に就任することとし、グループ経営のより一層の強化を図ります。これに伴い社外取締役

も1名増員して牽制機能の強化を図ります。また、同様に実効性評価において高い評価を得ている当社監査役会の機能をさらに強化するため、社外監査役を1名増員して5名で構成することと致しました。その結果、社外監査役比率は半数を超え、監査体制および機能の中立性、独立性がより高まりました。また、社外役員全体の比率も高まりました。

■終わりに

企業は多くのステークホルダーの皆様へ支えられて成り立っています。

JFE グループは、

- ◎技術力に裏打ちされたより良い商品と一貫したサービス・サポートを提供することで、お客様に選ばれるブランドを目指すとともに、原材料・資機材などの購入についてもお取引先様と協力して、強固なサプライチェーンを構築してまいります
- ◎グループ会社・協力会社を含め、JFEで仕事に携わる人たちにより安全で働きがいのある職場を提供して「人の力」を最大限発揮できる環境をつくってまいります
- ◎地球環境保全はもちろん、地域の活性化に取り組み、地域の方々と共に共栄を図ります
- ◎このような取り組みを継続することによって利益成長を図り、適切な還元を通じて、株主の皆様へ満足いただくべく努めてまいります

当社の事業を取り巻く環境は引き続き厳しいものと思われませんが、その中でステークホルダーの皆様のご期待に少しでも近づくべく、グループをあげて努力してまいりますので、引き続きご理解・ご支援のほど宜しくお願い申し上げます。

JFE GROUP 2015 → 2017

JFEグループは、2002年の会社創設以来、幾多の事業再編を経て、企業としての持続的な成長のための体質強化に取り組んできました。

現在、JFEグループは2015年春に策定した「JFEグループ 第5次中期経営計画」に基づき、持続的な成長と企業価値向上に向けた取り組みを推進してきました。

足下では、グループの中核である鉄鋼事業を中心に、昨年と同様に厳しい事業環境が継続しています。しかしながら、グループ各社はこれまでの2年間、持続的成長を支えるための施策に着実に取り組んできました。

本年の「JFEグループTODAY」では、第5次中期経営計画の達成に向けたグループ各社のこれまでの取り組みを紹介していきます。



JFE STEEL

JFE ENGINEERING

JFE SHOJI TRADE

JAPAN MARINE UNITED

鉄鋼製造の底力を発揮

常に新たな価値を創造し、
お客様とともに成長する
グローバル鉄鋼サプライヤーを目指します

第5次中期経営計画では、「製造実力の更なる向上」「世界をリードする技術開発力強化」「お客様志向の販売活動強化」「海外事業の推進」「技能伝承と人材育成の継続」を主要施策として掲げました。

当社は、上工程を中心とした設備の更新を着実に実行し、多様な人材を採用・育成することで国内の製造基盤をさらに強化するとともに、メキシコやベトナムなど今後経済発展が見込まれる地域に積極的に投資し、JFEのプレゼンスを高めてきました。また、グループ会社を含めたJFEの総合力を発揮するため、グループ会社の再編や共同での商品開発・販売活動を展開してきました。今後も社会の変化に柔軟に対応し、収益基盤強化を進めてまいります。



JFEスチール株式会社
代表取締役社長（CEO）

柿木 厚司

Efforts of JFE STEEL

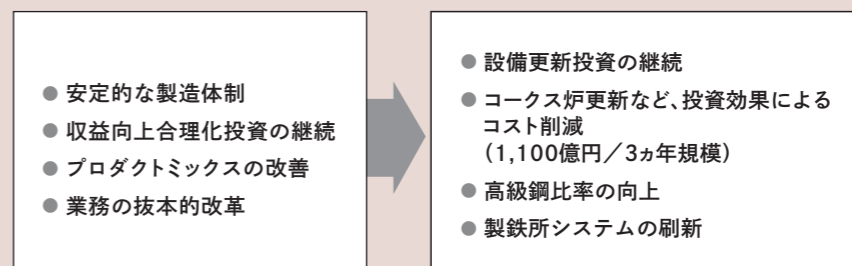
製造実力の向上に一層の磨きをかける

前中期より実施してきた製造実力の向上に一層の磨きをかけ、将来的にJFEブランド5,000万トンへと拡大していくとともに、ROS（売上高経常利益率）を10%に向上させます。

国内製造基盤の強化

設備投資により国内製造基盤のさらなる強化を行い、安定生産やコスト削減、高級鋼へのプロダクトミックスシフトを推進します。

国内設備投資 6,500億円 / 3ヵ年規模（対前中期 +1,700億円）



海外事業の推進

アジアを中心とする海外プロジェクト投資による収益拡大と、技術優位性に基づいた重点分野での事業展開を進めていきます。

	事業方針	重点地域
重点3分野	自動車	グローバル調達対応を加速 中国・タイ・インドネシア・インド・北米
	エネルギー	需要地にて事業展開 北米・UAE
	インフラ建材	アジアにターゲットを絞り事業展開 ベトナム

技術開発力の強化

上工程を中心とした革新的なプロセス技術の開発によるコスト削減と、データサイエンスを活用したプロセス制御などによる生産安定化に取り組めます。

	開発方針	
重点3分野	自動車	超ハイテン開発と海外拠点での製造推進
	エネルギー	革新的TMCP技術を活用した高機能厚鋼板、磁気特性に優れた高機能電磁鋼板
	インフラ建材	外観・機能に優れた建材新商品、耐震性・施工性に優れた鉄鋼建材

これらの取り組みは 技能伝承と人材育成の継続 お客様志向の販売活動強化 によって支えられています。

Efforts of JFE STEEL-1

国内製造基盤の整備

コスト削減や生産の安定化を目指し、積極的な設備投資やグループ会社再編を敢行

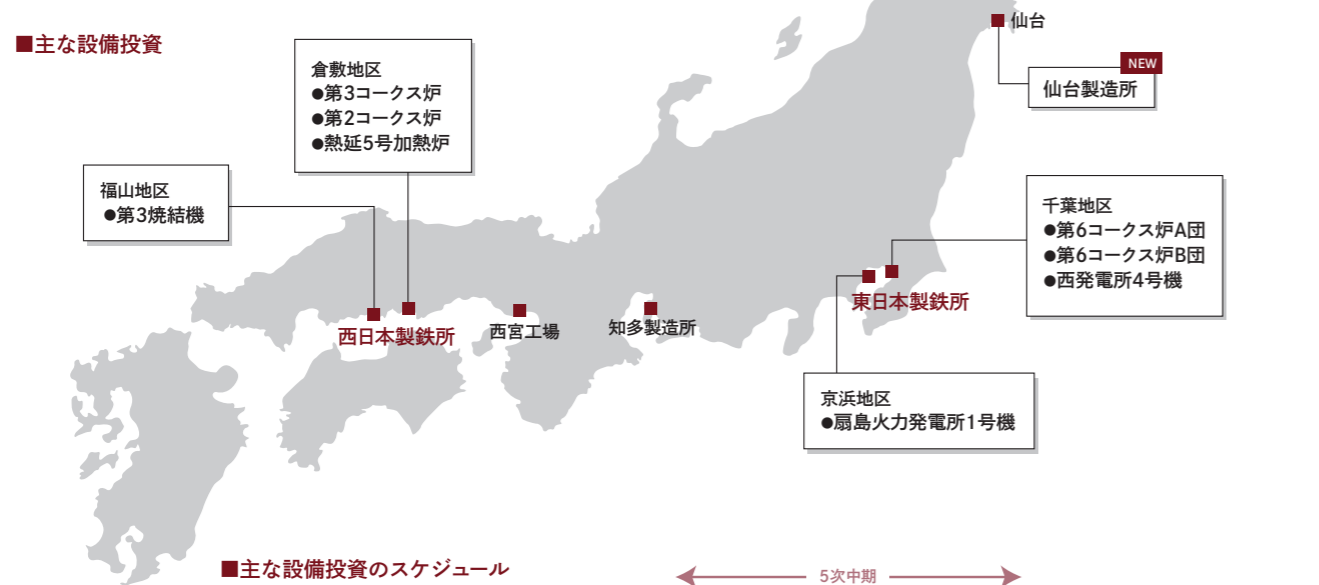
活発な企業活動や2020年東京オリンピック・パラリンピックに関連した建設などを背景に、堅調な様相を見せる国内の鉄鋼需要。これらを最大限捕捉するとともに、コスト削減や安定生産につながる設備投資を着実に進めています。

前中期から継続している設備の更

新・投資により、高級鋼へのプロダクトミックスシフトを推進し、競争力向上を図っています。加えて、情報通信技術を活用し、製鉄所システムの刷新なども同時に行っています。

また、将来を見据えた事業再編を行い、スチール本体を含めた全体の最適化を実行します。

■主な設備投資



■主な設備投資のスケジュール

工程	地区	設備	5次中期					
			14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
上工程	倉敷	第3コークス炉		2016年1月稼働				
		第2コークス炉		2017年3月稼働				
	千葉	第6コークス炉A団		2016年10月稼働				
		第6コークス炉B団		2018年中 (稼働予定)	2019年中 (稼働予定)			
熱延	倉敷	5号加熱炉		2017年3月稼働				
		西発電所4号機		2015年7月稼働				
エネルギー	千葉	扇島火力発電所1号機		2019年度下期 (稼働予定)				
	京浜	扇島火力発電所1号機		2019年度下期 (稼働予定)				
システム		製鉄所基幹システム(第1期)		2018年度下期 (完成予定)				

稼働済 → 今後稼働予定 →



コークス炉や焼結機などの上工程を整備
千葉地区、倉敷地区のコークス炉を中心に上工程の設備更新と能力増強を図ることで、世界と渡り合える製造実力の維持と向上に取り組んでいます。

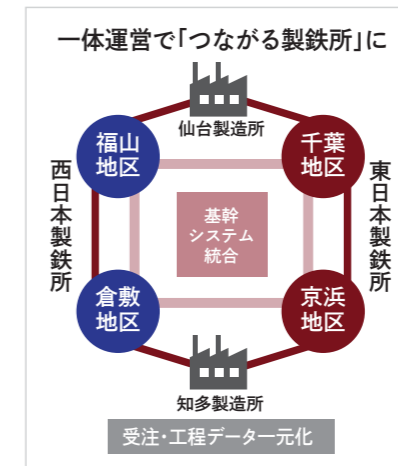


製造能力のさらなる向上
倉敷地区熱延工場の5号加熱炉を増設し、熱延鋼板製造の能力向上を図るとともに、エネルギー効率の改善によりCO₂排出量の削減にも貢献します。



エネルギー設備を整備

千葉地区と京浜地区に最新の発電設備を導入することで、高いエネルギー効率のもと製鉄所内の副生ガスを最大限活用し、環境負荷の低減とコスト効率性の両立を追求します。



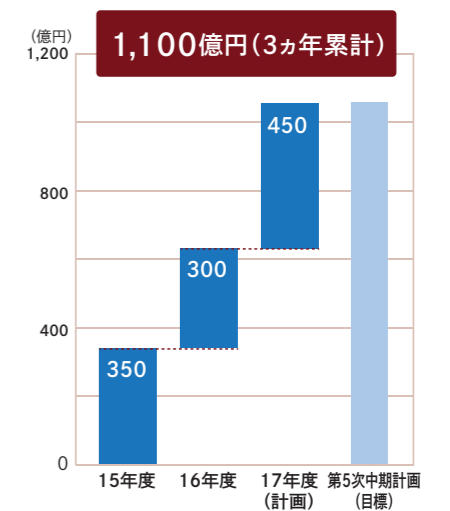
システムの刷新で、つながる製鉄所へ

全製造拠点の基幹システムのデータベースを一元化し、生産管理・品質管理のシステムを刷新することで、拠点間の連携を強化することができます。また、業務効率化を行い、ワークスタイル変革も推進していきます。

コストダウン

自動車や建設分野における鋼材需要の増加に伴い、国内市況は緩やかに回復している一方で、足下の原料炭価格の急騰が大幅なコストアップを誘引しています。そのため、新規稼働設備によるコスト削減の早期実現が求められています。

コークス炉更新などの投資効果および操業改善効果を実現することにより、3カ年で1,100億円規模のコスト削減を図ります。



グループ再編 ~新たな時代に向けたシナジーを追求して~

<p>JFE プラントエンジ JFE メカニカルと JFE 電制の統合 2016年4月</p> <p>機械系(JFE メカニカル)、電気・制御系(JFE 電制)のメンテナンス・工事、エンジニアリングを統合し、製鉄設備の保全と更新を担う中核会社としての体制を強化しました。また、事業規模をさらに拡大することで、競争力と新しい事業の創出能力を高め、幅広い産業分野において多様な設備ニーズに対応していきます。</p>	<p>JFE 溶接鋼管 JFE スチール・JFE 鋼管・川崎鋼管の小径電線管事業の統合 2017年4月*</p> <p>小径電線管事業の更なる成長・発展を目指して、3社(JFE スチール・JFE 鋼管・川崎鋼管)の事業を統合し、グループの技術・人材を結集させて国内・海外での販売力をさらに強化していきます。</p> <p>*JFE スチール知多製造所の小径電線管は2017年10月1日にJFE 溶接鋼管に移管</p>	<p>棒線事業の統合 2017年4月</p> <p>今後の海外展開や国内での競争力の向上を目指し、JFE 条鋼の仙台製造所をJFE スチールに移管しました。また、スピーディーに事業戦略を立案・実践し、技術・人材交流を加速させるため、商品開発・販売・製造を一体化した「棒線事業部」を新設しました。</p>
--	---	--

Efforts of JFE STEEL-2

海外事業の拡大

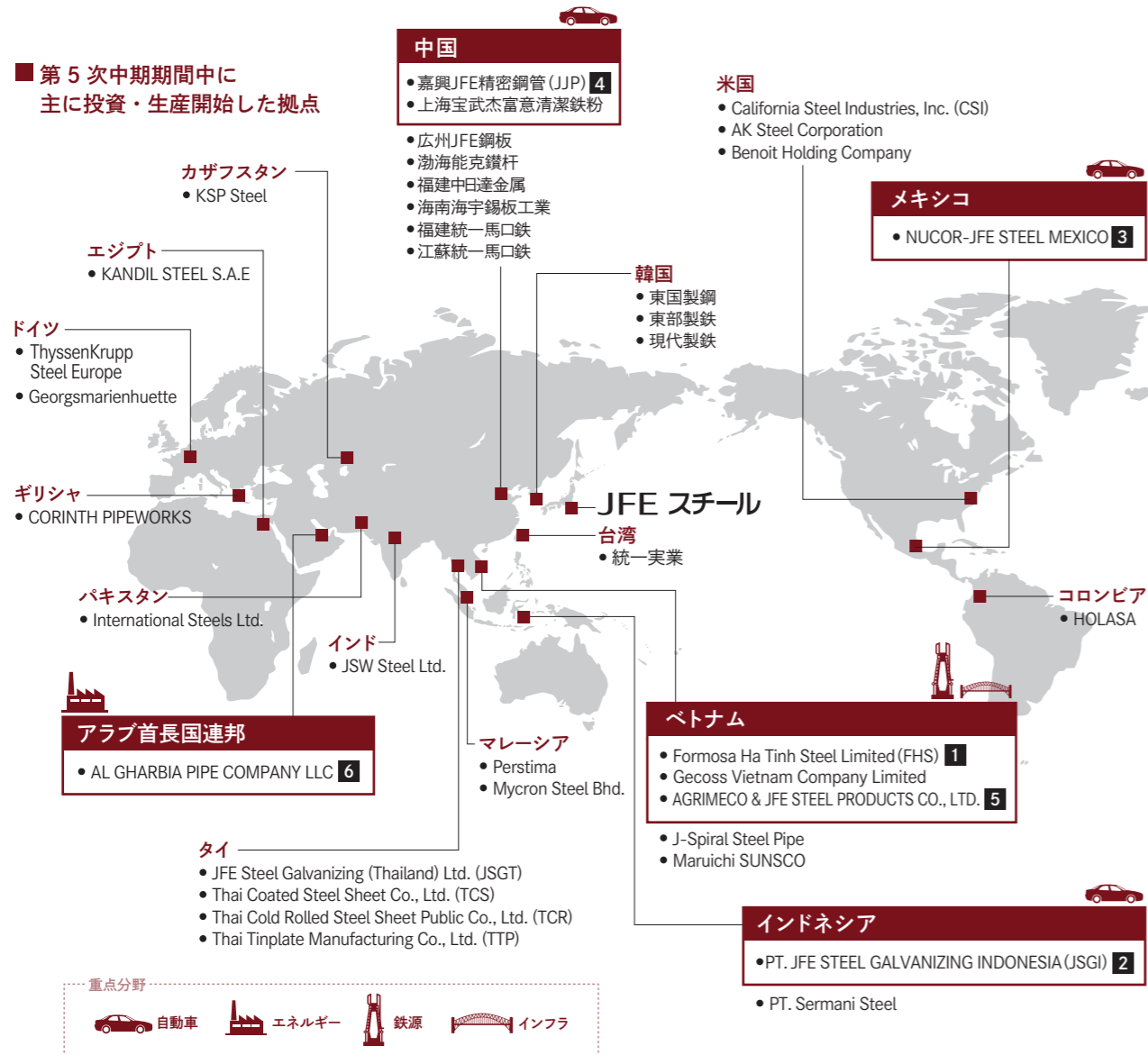
経済発展が著しい海外諸国のニーズを確実に掴む

経済成長を続ける世界各国では、今後も鉄鋼需要の増加が見込まれています。当社は、これまでもアジアを中心に新たな鉄鋼需要を捕捉するため、海外展開を積極的に進めてきました。

第5次中期経営計画では、自動車・エネルギー・インフラ建材を重点分野と位置付け、新たにメキシコやUAEに進出しました。

高い技術力やノウハウをもとに、世界

的に有力な企業や現地企業とパートナーシップを結び、現地のニーズに応じた高品質の鋼材を供給していきます。



1 ベトナムでの鉄源確保に向けて
当社は、台湾の総合石油化学メーカーである台湾プラスチックグループがベトナムのハティン省で建設している一貫製鉄所プロジェクト (FHS社) に資本参加しました。今後、FHS社の早期の安定稼働に向け協力し、ベトナムで製造された製品を出資先やお客様に販売することで、JFEブランドの拡大を目指していきます。



2 JSGIがインドネシア初の自動車用溶融亜鉛鍍金鋼板製造設備を稼働
東南アジア有数の自動車生産国であり、今後さらなるマーケットの成長が期待されるインドネシアの高級自動車用鋼板の現地調達ニーズに対応するため、PT. JFE STEEL GALVANIZING INDONESIA (JSGI) で、インドネシア初の自動車用溶融亜鉛鍍金ラインを2016年1月に稼働しました。



3 NAFTA地域で自動車用鋼板合併事業を展開
北米の好調な自動車需要を確実に捕捉するため、米国最大の鉄鋼メーカーであるNucor Corporationと合併で、メキシコで自動車用鋼板の製造および販売を行うNUCOR-JFE STEEL MEXICOを設立しました。自動車用溶融亜鉛鍍金ラインをメキシコ中央部で建設し、2019年中に稼働させる予定です。



4 中国での鋼管・鉄粉の会社設立
自動車生産の増加が見込まれる中国で、台湾最大の伸管メーカーの萱華工業股份有限公司、伊藤忠丸紅鉄鋼と合併で嘉興JFE精密鋼管有限公司を設立し、製造を開始しました。また、中国宝武鋼鉄集団の子会社と偏析防止プレミックス鉄粉の製造・販売を行う上海宝武杰富意清潔鉄粉有限公司を設立しました。



5 ベトナムで建材販売合併会社を設立
ベトナムには道路や鉄道といった交通インフラや、発電プラントなど多くの建設計画があります。堅調な需要に対応するため、ベトナム有数の建設・加工会社であるAGRIMECO社と合併のもと、現地で建材加工商品の販売を行うAGRIMECO & JFE STEEL PRODUCTS CO., LTD. を設立しました。



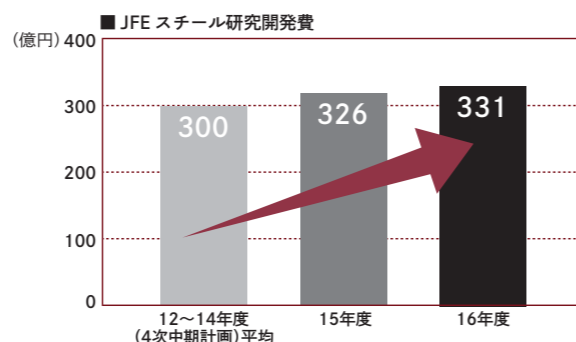
6 アラブ首長国連邦で大径溶接鋼管合併事業を展開
当社と伊藤忠丸紅鉄鋼、およびアラブ首長国100%出資の投資事業会社SENAAT社が出資するAL GHARBIA PIPE COMPANYは、2016年4月にアラブに大径溶接鋼管工場の建設予定地で鉄入れ式を行いました。2018年10月の営業生産を目指して建設を進めていきます。

Efforts of JFE STEEL-3

研究開発の推進

鉄という素材の可能性を極限まで追求する技術開発

第5次中期経営計画では、技術開発を強化・推進してきました。10年先を見据え、お客様や社会のニーズを先取りした新商品や利用技術の開発、および世界最高水準の地球環境技術や省資源技術の開発を加速するとともに、革新的なプロセス開発による画期的な新商品の創出と高品質な商品製造技術の確立を強力に推進していきます。

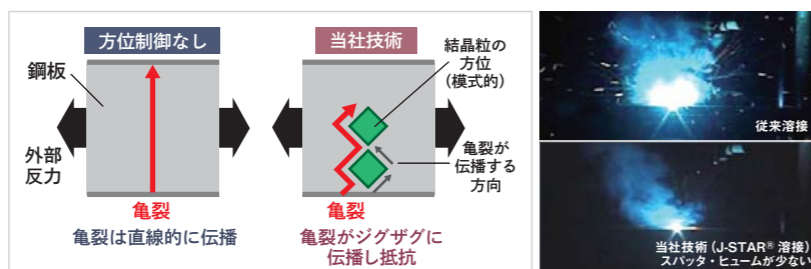


商品開発



エコガルNeo®の開発

従来のエコガルの優れた溶接性・加工性を維持し、表面外観を向上させた電機・建材・自動車向けのエコガルNeo®を開発し、生産を開始しました。当社で製造し、当社とJFE 鋼板が販売します。



高アレスト鋼板およびメガコンテナ船用設計溶接技術の開発

コンテナ船の大型化による輸送効率向上を支える技術として、世界最高厚の板厚100mmでYP460Mpa級の高アレスト鋼板を開発しました。また、超極厚アレスト鋼として世界で初めて溶接性とアレスト性能を高度に実現しています。さらに、当社とJMUは共同で、超大型コンテナ船で脆弱き裂の伝播を停止できる「構造アレスト設計技術」と、J-STAR®溶接を活用した製造効率を高める「狭開先アーク溶接技術」を開発しました。



長さ約1.6mの試作品

水素ステーション蓄圧器の開発

当社とJFE コンテナは水素ステーションの建設コスト低減に寄与する蓄圧器を開発しました。JFE コンテナが設計したもので、当社鋼管のライナーに炭素繊維を巻き付けた、水素貯蔵用の容器です。



デザイン性に優れた座屈拘束プレス「J-ROD®プレス」

建築用鋼材の開発

2015年に建材センターを立ち上げ、グループ一体で商品開発や拡販を戦略的に進めています。JFE シビルやJFE 建材などのグループ会社やお客様と一緒に商品や工法を開発して成果をあげています。



1,470MPa級超ハイテンを使用したバンパーレインフォースメント

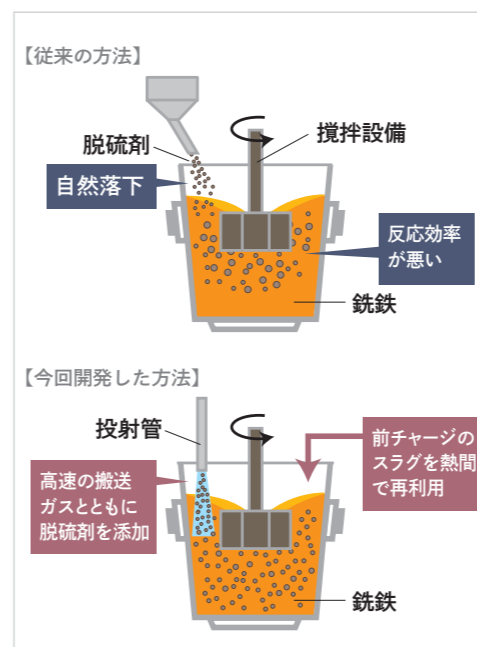
自動車用鋼板の開発

燃費向上によるCO₂排出量削減を目的とし、車体軽量化と衝突安全性向上を可能にするハイテンを開発しています。また、高強度だけでなく、部品を成形する際に必要な加工性も追求しています。

プロセス開発



高生産性インテリジェント制御熱延スキンパス設備
お客様からのさらなる品質向上に対するご要望に対応するため、「スマート制御技術」を活用した世界初のインテリジェント制御熱延スキンパス設備を開発しました。これは、板厚や形状ならびに通板時の蛇行など、多くの変数を最適制御することで、世界最速の自動運転圧延を可能にしたものです。能率向上と品質安定化を同時に実現することで、生産量の拡大・収益向上を実現していきます。



地球環境に優しい高効率溶銹脱硫技術

溶銹予備処理プロセスにおいて、「脱硫剤投射法」「スラグホットリサイクル法」を開発し、全社の製鋼工場内の機械攪拌式溶銹脱硫設備に導入しました。これにより、従来方法と比べ、脱硫剤の反応効率は約2倍に向上、発生スラグ量は30%低減し、世界最先端のエネルギー効率・資源循環率・環境保全技術に貢献しています。

JFE STEEL HIGHLIGHT 2016

2016年

- 4月 アブダビ首長国連邦の大径溶接鋼管工場の建設予定地で鍛入れ式を実施
文部科学大臣賞表彰式(冷間タンデムミルの高速圧延技術)
市村産業賞贈呈式(Super-CR)
- 5月 福山地区と京浜地区で祭りを開催
冷間ロールコラムの耐火被覆を低減し大臣認定取得
LNG船用YP460Mpa級高アレスト鋼板を開発し世界初適用
- 6月 製鉄所基幹システム刷新に着手
米Nucor社とメキシコでの自動車用鋼板合弁事業を決定
建築構造向け制振デバイス「JFEの制振壁」が認定取得
全国発明表彰顕彰式(プレス成形性に優れた590~980MPa級GA鋼板)
- 7月 JFE 東西硬式野球部が第87回都市対抗野球出場
欧州ガス運搬用パイプライン向け鋼材を受注
座屈拘束プレス「J-ROD®プレス」を新開発
- 8月 独ティッセン・クルップ・スチール・ヨーロッパ社とのクロスライセンス契約締結
国内初「ミルシート偽造判定システム」稼働
- 9月 当社が技術支援したブラジルのゲルダウ社厚板ミル稼働式
JFE STEEL GALVANIZING INDONESIA 開所式
- 10月 JFE 鋼管・川崎鋼管の統合を発表
千葉地区で祭りを開催
- 11月 JFE 西日本硬式野球部が第42回日本選手権出場
千葉地区第6コークス炉A団完工・稼働式
倉敷地区・知多製造所で祭りを開催
JFE 条鋼仙台製造所の当社への移管発表
世界最高強度1,470MPa級冷延ハイテンの新開発・実用化
- 12月 マリンストーン®が日経地球環境技術賞授賞
出荷・納入システム「One JFE®」稼働
新機械振興賞受賞(表面処理鋼板の非接触通板制御装置)

2017年

- 1月 メガコンテナ船用極厚アレスト鋼の開発
メガコンテナ船用設計・溶接技術の開発
- 2月 ベトナムで建材販売合弁会社を設立
- 3月 倉敷地区5号加熱炉稼働式
冷間コラム珪酸カルシウム板耐火被覆厚低減
宝武鋼鉄集団と中国での鉄粉事業の合弁会社設立
福山地区焼結機更新を発表
千葉地区の事業所内保育所の開所式
インドネシアSPINDO社への出資
倉敷地区第2コークス炉稼働

時代の最適解を提供

夢をかたちにするエンジニアリング企業として、 くらしの礎を「創り」さらに「担う」会社へ

第5次中期経営計画では、「海外事業の拡大」「多様な発電プラントによる電力創生」「提案型一貫サービスの提供」などを主要施策に掲げました。

これまで、海外では体制整備を進め、

ミャンマーを中心とした東南アジアでインフラ創りに貢献、

電力創生分野では再生可能エネルギー発電事業および電力販売を拡大、

環境分野を中心とした提案型一貫サービス事業も

着実に育ってきており、目標達成に向け確かな歩みを進めてきました。

引き続き明確なビジョンと途切れない夢をもって、

次なる飛躍を目指してまいります。



JFE エンジニアリング 株式会社
代表取締役社長 (CEO)

大下元

Efforts of JFE ENGINEERING

国内外のニーズを的確に捉え、プレゼンスを高めていく

海外事業の拡大

ごみ焼却炉(廃棄物発電)・水処理プラント・鋼構造など、当社が優位性を持つ商品分野を中心に、前中期にM&Aなどで整備した経営資源によるグローバルエンジニアリング体制をさらに推進させ、海外インフラ需要に対応します。



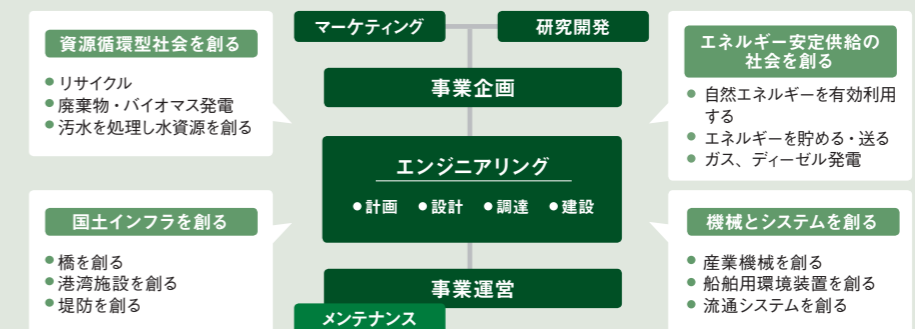
多様な発電プラントによる電力創生

廃棄物、バイオマス燃料、地熱、太陽光などの多様なエネルギーソースと幅広い出力領域(5~100MW級)に対応する商品でお客様のニーズに応えます。

提案型の一貫サービスの提供

事業計画の立案、EPC(設計・調達・建設)から事業運営までの一貫サービス事業を拡大するとともに、社会インフラの更新ニーズへ新技術・工法を含めたトータルソリューションを提案します。

■ 事業概要



新商品の開発と市場投入

お客様・市場のニーズにあった新商品(バラスト水管理システム、スマートアグリ、メディカル分野など)を迅速に市場に提供し、受注拡大を目指します。

Efforts of JFE ENGINEERING-1

海外事業の拡大



ミャンマー初の廃棄物発電プラント完成

竣工式典の様子

海外拠点の設立と機能拡大を進め、アジアで培ったノウハウを世界各国へ伝播する

多様なインフラ需要が広がる海外において、当社は都市インフラや環境エネルギー分野を中心に事業規模の拡大を図っています。

海外展開の中心エリアにあたるアジアでは、さらなる市場開拓に向け、拠点の設置を進めています。ミャンマーでは、経済の急成長に付随するインフラ整備を担うべく、同国建設省

との合併により「J&Mスチールソリューションズ」を設立。インドでは、設計センターを設立し、低コスト・高品質のサービスを提供できる体制を整えました。

欧州では、ドイツのプラントエンジニアリング企業を買収。欧州・中東地域における、発電プラントなどの計画設計から建設までをフルターンキーで請け負う体制を整備しました。

今後は、これらの合併会社設立やM&Aに加え、既存の現地法人を拡張するなど、各国拠点の営業・調達・設計・製造といった機能を最適化する「グローバルエンジニアリング体制」を構築し、新たな地域へと展開していきます。



J&Mスチールソリューションズ年産2万トンから3万トン体制へミャンマー国との合併会社J&Mスチールソリューションズ。ヤンゴン市タケタ地区の鋼構造物製作工場の再拡張を進めています。周辺諸国で拡大するODA案件をはじめ、高品質な橋梁需要に対応してまいります。



日本の技術を現地で活かすミャンマー人技術員
J&Mスチールソリューションズでは、当社の津製作所などで研修を受けた技術員が活躍しています。現在、当社の鋼橋技術が多数採用されたバングラデシュのゴムティ橋を製作中。製作だけでなく、設計・施工で活躍するエンジニアも育成しています。



ミャンマー初の「送り出し工法」で架橋
J&Mスチールソリューションズが受注したマンダレー市近郊のミンゲ鉄道橋(全長約220m)。クレーンでの架設が困難な現場に適した「送り出し工法」が採用されました。当社の高度な技術がアジアのインフラ整備に活かされています。



海外拠点の活用
M&Aにより、インドで環境プラントの設計エンジニアリングを分担する体制を整えました。その他の拠点を含め、ITによる最先端設計ツールの共同開発や3D図面作成・プログラミングも行っています。



マニラ拠点の拡充
2015年10月にマニラ支店を開設しました。また、1995年に設立したJFE テクノマニラでは、現在約400人のエンジニアがグローバルエンジニアリングの重要な戦力となっており、東南アジアにおけるコア人材の拠点として業務範囲を拡大しています。



スタンダードケッセルがバイオマスプラントを完成
当社グループの独スタンダードケッセルが英国でバイオマスプラントを完成させました。このプラントは、地域への電力供給に加え、シングルモルトウイスキーで有名なザ・マッカラン蒸溜所に蒸気を供給、CO₂削減に寄与します。

Efforts of JFE ENGINEERING-2

一貫ソリューションの提供 ~電力創生・事業運営~



旧清水製作所跡地に誕生した太陽光発電所「三保ソーラーパーク」



熊本市新西部環境工場



東埼玉資源環境組合 第二工場

福岡都市圏南部環境事業組合 新南部工場

ワンストップでの電力供給

再生可能エネルギーの拡大とエネルギー市場の自由化が進む国内において、当社の中心事業のひとつになったのが、多様な発電プラントによる電力創生です。

2016年4月の電力完全自由化に伴い、電力を扱う企業の設備増強案件が増加。当社は新技術を投入し、商品力を高

めました。バイオマス発電、太陽光発電、地熱発電などの再生可能エネルギー事業の事業企画からプラントの設計、建設、事業運営まで、電力小売を行うグループ会社アーバンエナジーと連携し、お客様にワンストップで一貫ソリューションを提供しています。

社会インフラの運営を促進

財政の逼迫や職員の高齢化により、自治体における事業の民間委託が加速している中、当社は事業主体として公共事業を行うPFI事業に積極的に参入しています。過去の案件から蓄積されたノウハウを最大限に活用し、EPC（設計・調達・建設）にとどまらず、事業運営まで一貫して携わるビジネスモデ

ルを提供することで、継続的なPFI案件の受注につなげています。今後は、一貫サービス事業を拡大していくとともに、社会インフラの更新ニーズに向けて新技術・工法を含めたトータルソリューションを提案し、将来にわたり安定的な収益の確保を目指していきます。



津バイオマス発電事業

当社津製作所内に2016年7月から、当社が出資するグリーンエナジー津のバイオマス発電所が営業運転をしています。当社はこの発電事業の立ち上げから電力小売まで事業全体を推進しています。



松尾八幡平地熱で発電設備一括受注

蒸気生産井の掘削から当社が参画している、松尾八幡平地域での地熱発電所の蒸気生産設備から発電設備までを当社として初めて一括受注しました。発電所建設と其後の事業運営を担います。



長岡市生ごみバイオガス化PFI事業

生ごみを微生物の働きで発酵・分解し、発生するバイオガスを高効率発電に利用します。発酵残渣も燃料として売却し、生ごみを無駄なく有効活用。当社は建設終了後も15年間の事業運営に携わります。



横浜市北部汚泥資源化センターPFI事業

当社は汚泥処理施設の包括的管理だけでなく、下水汚泥から燃料と改良土をつくるPFI事業も実施します。当社の提案が横浜市を目指す循環型社会形成に貢献しています。



豊橋市バイオマス資源利活用PFI事業

生ごみ、し尿、下水汚泥を一ヶ所でまとめてエネルギー化する国内初のプロジェクトです。急激な都市化が進む東南アジアなど海外においても需要が見込まれています。



全国の環境プラントを24時間集中管理

横浜本社のリモートサービスセンターでは、プラントの安定操業と売電最適化を両立するためにJFE ハイパーリモート®が導入されています。

Efforts of JFE ENGINEERING-3

新たな事業領域の開拓

積み重ねてきたノウハウを発揮し、
ニーズを満たすビジネスモデルを創り出す

多様化するニーズに応えるべく、新たな事業領域を開拓し展開することは重要な任務です。当社は、お客様や市場のニーズを的確に捉え、保有する技術を応用・発展させて新商品を開発し提供しています。

そのような中、今注目を浴びている商品が、「バラスト水管理システム」と「スマートアグリ」です。

バラスト水とは、船体を安定させるため、貨物船に貯水する水のことで、注水されたバラスト水中に含まれる外来生物が排出先水域の生態系などに悪影響を及ぼすという問題があります。これに対応すべく、当社はフィルター処理と薬剤注入方式を組み合わせたシステムを開発。水域・水質に左右されずに注水したバラスト水中の生物を除去するシステムにより、生態系の保全に貢献しています。

一方、スマートアグリとは、エネルギーや環境分野におけるエンジニアリング技術と独自の栽培ノウハウを融合させた新しい農業生産プラントの仕組みです。地域の気候条件に応じた温室内環境を創出するとともに、最適なエネルギー源を活用し、多様な作物を通年で効率的に栽培することを可能にしています。

ほかに、当社開発の薬剤製造システムを活用したがん診断用検査薬の製造装置を開発するなど、新たな分野におけるビジネスモデルの創出に成功しています。



バラスト水管理システムのアフターサービスネットワーク拡充
納入実績400隻以上のバラスト水管理システム「JFEバラストエース®」。アフターサービスネットワークを拡充し、お客様のニーズにお応えした高度なサービスを提供していきます。



北海道などでスマートアグリプラントを展開
最先端技術を駆使し最適な栽培環境を実現するスマートアグリプラント。北海道でのグループ会社による事業展開に加え、その先進性が認められ新潟でEPC初受注となりました。



最先端のがん診断薬開発
新型の抗がん剤や認知症治療薬の開発においてもPET検査が活用されてきています。従来の装置販売だけでなく、最新のがん診断薬の開発・提供を目指します。

**2017冬季アジア札幌大会
スピードスケート5000mで
銅メダルを獲得**

スマートアグリ事業部所属の歸山麻衣(きやままい)選手。ピョンチャン五輪を目指して日々トレーニングに励んでいます。

JFE ENGINEERING HIGHLIGHT 2016

2016年

- 4月 フィリピンマニラ南部汚泥処理場完工
宇部興産発電所の蒸気タービン更新工事受注
- 5月 (J&Mスチールソリューションズ)年産2万トン体制が始動、3万トンに再拡張へ
東京都千代田区大手町、大阪府枚方市でサイクルツリー完工
- 6月 都市ガス供給技術(AtoMS、MiReMo)が日本ガス協会技術大賞と技術賞を受賞
- 7月 (グリーンエナジー津)バイオマス発電所完工、商業運転開始
新潟でスマートアグリプラントEPC初受注
ミャンマー・ミンゲ鉄道橋完工 ミャンマー初の送り出し工法採用
フィンランドバルメット社との業務提携による国内最大級75MW八戸バイオマス発電プラントを初受注
(SKG)ザ・マッカラン蒸溜所のバイオマスプラント完工
- 8月 狩野社長(当時)が安倍首相に同行しアフリカ開発会議に参加
- 9月 国内最大口径のφ16.1m東京外環道建設シールドマシン完工
福山市の主力浄水場の運転・維持管理業務を受託
- 10月 (JFE環境)汚染土壌の積替保管・海上輸送事業を開始
トンネル用シールド掘進機事業の統合完了
- 11月 対向流燃焼を適用した低NOx型ストーカ炉が日本燃焼学会技術賞受賞
佐伯バイオマス発電所完工、商業運転開始
- 12月 大田市場の花きコールドチェーン施設「OTA花ステーション」完工
南長岡ガス田の越路原プラントの設備増強工事完工
ラオス国で国際幹線道路の橋梁架け替え工事を受注
リバーブリッジ ODAで初採用
豊前ニューエナジー75MW級バイオマス専焼発電プラント受注

2017年

- 1月 釧路火力発電所112MWのCFBボイラ発電プラントを受注
東南アジア初のシャフト式ガス化溶融炉をシンガポール南洋理工大学より受注
フィリピン最大のラメサ浄水場更新工事受託
- 2月 熊本県水俣市でCO2を大幅に削減する地域新電力の実証開始
東京電力フューエル&パワーと再生可能エネルギーおよび自治体等インフラサービス分野の共同事業実施に向け基本合意
- 3月 大船渡75MW級バイオマス発電プラントを受注
東大阪市都市清掃施設組合 第五工場完工
館林衛生施設組合 たてばやしクリーンセンター完工
香南市清掃組合 まほろばクリーンセンター 完工
(JFE 環境)JR東日本グループと食品リサイクル事業に参入
福島ガス発電よりLNG気化設備増設工事一式受注
岩手県松尾八幡平地域で地熱発電所建設を一括受注

“鉄脈”を世界に広げる

ビジネスの最前線で培った「機能」と「提案力」で次代のニーズに応える商社を目指します

第5次中期経営計画では、「マーケットの開拓」「付加価値の創造」

「グループ力の強化」を主要施策として掲げました。

この方針に基づき、国内ではJFE 電磁鋼板のグループ化や

阪和興業と共同で近江産業へ出資を行い、

また海外ではアセアンを中心とした成長地域・分野において、

大手鋼板製造メーカー、伸線加工会社への出資や鉄筋加工会社の設立など、

先を見据えた流通の再編・強化と積極的な経営資源の投入に

取り組んでまいりました。

引き続きJFE グループの中核商社として機能と提案力を磨きあげ、

グループ収益の最大化に貢献してまいります。



JFE 商事 株式会社
代表取締役社長 (CEO)

織田 直祐

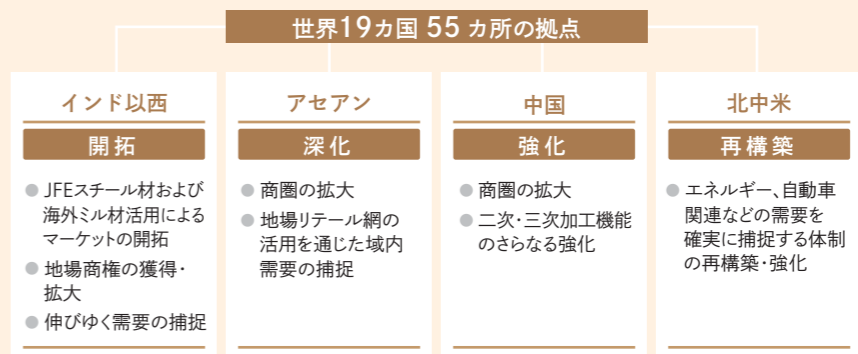
Efforts of JFE SHOJI TRADE

グループの中核を担う商社として、先を見据えた戦略で独自機能に磨きをかける

JFE 商事は、JFE グループの中核商社として、国内外のグループ力強化を図り、高度化するお客様ニーズにスピーディーに対応していきます。

海外マーケットの開拓

成長地域・分野における需要の着実な捕捉とともに、地産地消に対応した地域戦略を推進します。



国内グループ力の強化

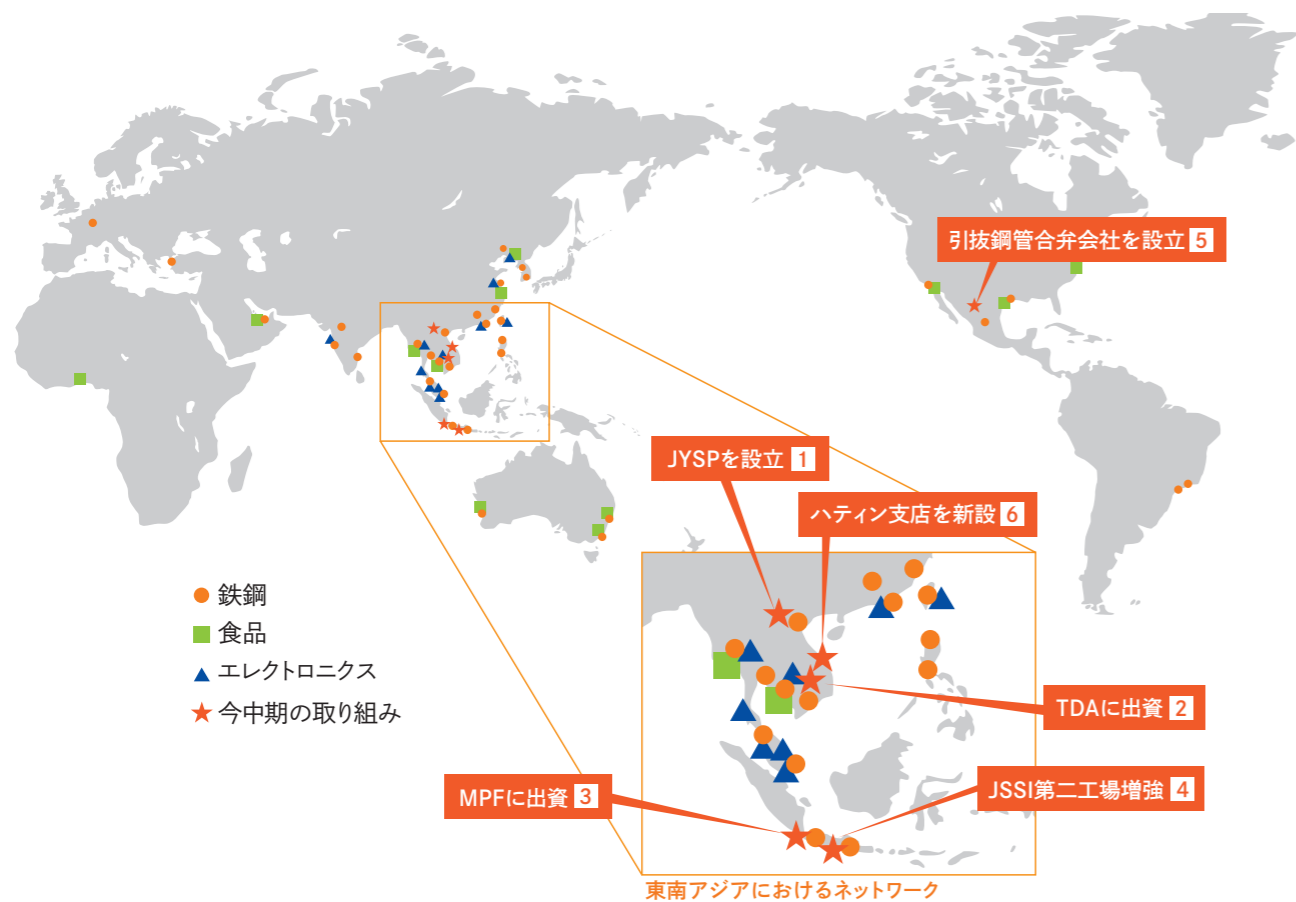
在庫・加工・リテール販売など、JFE 商事グループの機能を最適化させ、サプライチェーン全体の付加価値を向上させるサービスを提供します。



Efforts of JFE SHOJI TRADE-1

海外マーケットの開拓

アジア、北中米、そして新たな地域へ。
世界中に広がるネットワークを駆使して
お客様のニーズに応える



世界19カ国に55カ所の拠点を持つJFE 商事は、成長が見込まれる地域・分野へ積極的に経営資源を投入しています。なかでも、急速に成長するベトナムやインドネシアでは、現地企業への出資や建材分野では海外初となる鉄筋加工会社を設立。さらに、これらの現地ニーズにスピード感をもつ

て対応するべく、2017年4月にはアセアン事業本部を設置するなど、先を見据えた事業戦略を推進中です。

一方、エネルギー・自動車関連産業の需要が拡大する北中米にも、昨年、米州事業本部を設立。メキシコでは、現地鋼材メーカーとの合弁会社を新設するなど、グローバルに広がるネット

ワークを基盤にお客様のものづくりを多面的に支援できる体制を構築しています。

また、こうした取り組みは鉄鋼関連分野にとどまらず、ヤシ殻や木質チップなどのバイオマス燃料事業など、社会的ニーズへも幅広く対応しています。



1 ベトナムに建材分野で初の海外加工拠点JYSPを設立
JFE 商事鉄鋼建材が、鉄筋金網製造販売を手掛けるワイビーテクノと共同出資し、ベトナム北部に鉄筋加工販売会社JY Steel Processing Vietnam (JYSP)を設立しました。同社はJFE 商事グループの建材分野で初の海外加工拠点で、日系ゼネコン向けに鉄筋加工品を販売します。将来的には、地場ゼネコン向けに地場メーカー製の異形棒鋼を加工して供給する「地産地消」のビジネスモデルも構築し、ベトナムの建設業界に貢献していきます。



2 ベトナムの鋼板製造メーカーTDAに出資
鋼材消費量の伸長が期待されるベトナム市場において、大手冷延・メッキ鋼板メーカーのTon Dong A Corporation (TDA)の株式を取得しました。同社への熱延材などの素材供給、同社製品の輸出販売などを行います。



3 インドネシアの伸線加工会社MPFに出資
自動車部品メーカーの進出により伸線材需要の拡大が期待されるインドネシアにおいて、伸線加工会社PT. Mega Pratama Ferindo (MPF)の株式を取得しました。母材となるJFE スチール製線材の供給だけでなく、サプライチェーン全体に参画していきます。



4 インドネシアに自動車用鋼板の加工拠点を設置
インドネシアの鋼材加工センターPT. JFE Shoji Steel Indonesia (JSSI)では、自動車用鋼板加工を専門とする第二工場を増強しました。既存の工場建屋を約3割拡張し、自動車向けの高張力鋼板や広幅のコイルも加工可能な大型スリッターを導入。近接するJFE スチールの自動車用薄板鋼板事業会社 (JSGI)との連携を強化し、拡大するインドネシアの自動車鋼板需要を捕捉していきます。



5 メキシコで引抜鋼管合弁会社を設立
メキシコの鋼管メーカーProductos Laminados de Monterrey, S.A.de C.V.、冷間引抜鋼管の製造・販売を行うサンキン株式会社とともに、合弁会社Pro-SANKIN Tuberia de Precision, S.A.P.I de C.V.を設立し、2017年2月に稼働を開始しました。高級な引抜鋼管の製造・販売を行い、成長するメキシコ自動車産業の需要を捕捉していきます。

6 ベトナムのJFE 商事会社にハティン支店を新設
2016年7月、現地法人のベトナムJFE 商事会社の傘下に、ハティン支店を新設しました。JFE スチールが出資したベトナム一貫製鉄所Formosa Ha Tinh Steel (FHS社)の本格稼働に備えて、資機材を中心に現地に着目した販売活動を行うほか、将来的には鋼材販売拠点としても活用していきます。

業容拡大に伴い米州事業本部&アセアン事業本部を新設
地域戦略をより一層促進し、意思決定の迅速化を図るため、2016年4月に米州事業本部を、2017年4月にはアセアン事業本部を新設しました。統括機能のさらなる強化を図り、中長期的な成長戦略を実行していくことで、JFE グループの収益最大化を目指します。

Efforts of JFE SHOJI TRADE-2

国内グループ力の強化

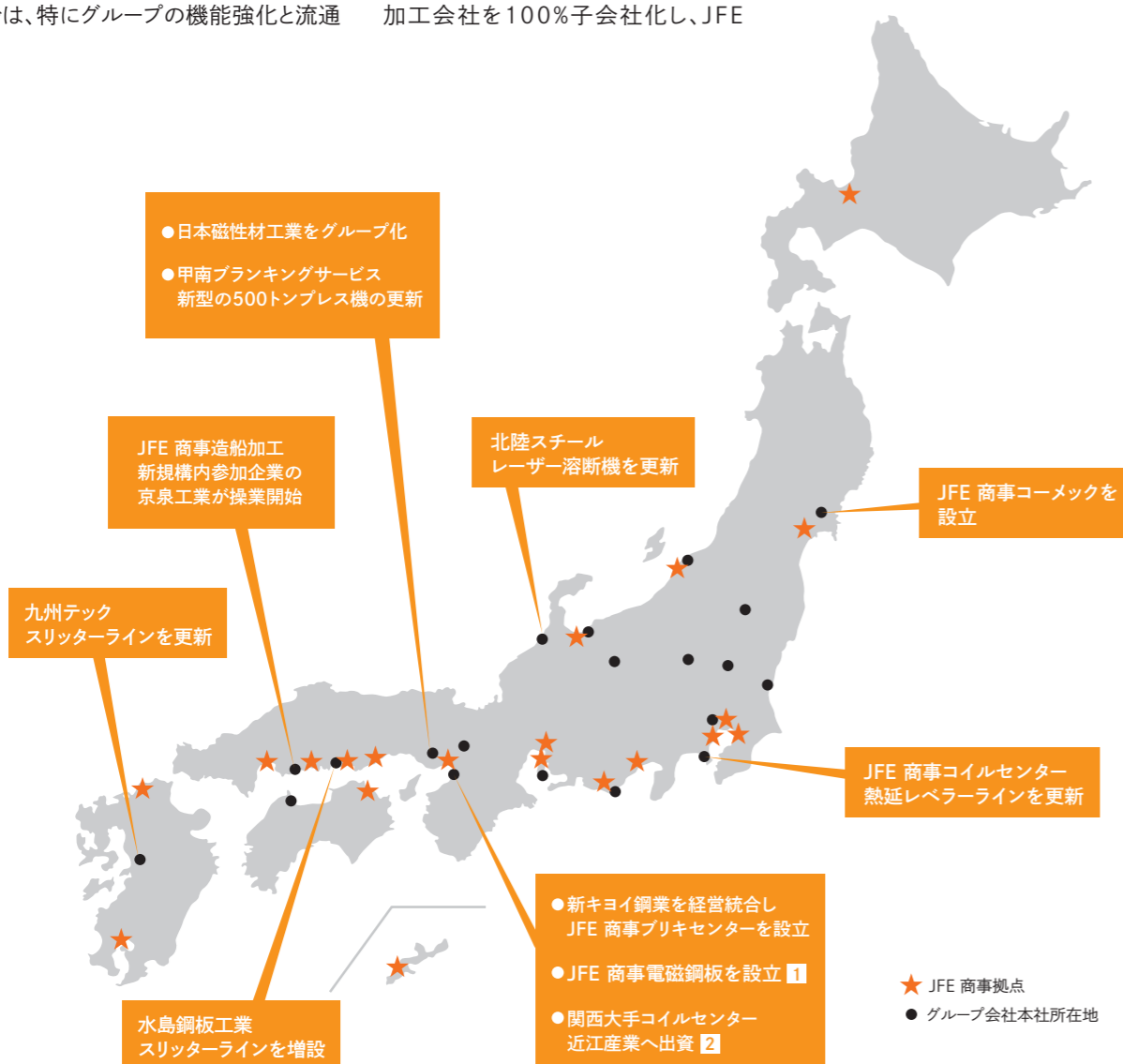
国内流通網の最適化で さらなるグループ力の強化へ

鉄鋼原料、資機材、鉄鋼製品の加工・販売から、食品、エレクトロニクス、テールアルメまで、あらゆる領域で国内のニーズに対応するJFE 商事は、グループ各社との連携を強化し、最適な販売体制を構築してきました。今中期では、特にグループの機能強化と流通

網の最適化を追求し、マーケットでのシェア拡大とプレゼンスを向上させることで、収益の拡大を図っています。

その一環として、関西大手コイルセンター・近江産業への出資を決定。またJFE スチールグループの電磁鋼板加工会社を100%子会社化し、JFE

商事電磁鋼板を設立するなど、グループの枠を越えた幅広い視点での再編や機能強化に取り組んでいます。各社の商材や設備を戦略的に組み合わせ、サプライチェーン全体のさらなる価値向上を目指します。



1 JFE 商事電磁鋼板を設立
2017年4月、JFE スチールから全株式を移し、JFE 商事傘下に「JFE 商事電磁鋼板」が新たに誕生しました。この再編を通じて、多様化する国内電磁鋼板マーケットに柔軟に対応すると同時に、培ってきた加工技術やノウハウをJFE 商事が海外展開する加工センター網に活かし、機能を拡大していきます。



2 大手コイルセンターの近江産業への出資
関西地区の大手コイルセンターである近江産業に出資することを決定しました。現メインサプライヤーである当社と、既存株主の阪和興業が将来を見据えて協業することで、経営基盤の安定化と収益基盤の強化を図ります。今後想定される国内の鉄鋼需要を見据え、JFE 商事が持つ加工ネットワークを最適化し、ビジネスの拡大・創出を図っていきます。

JFE SHOJI TRADE HIGHLIGHT 2016

- 2016年**
- 4月 ステンレス・特殊鋼本部を改編
米州事業本部を新設
電機鋼材貿易部電機鋼材貿易室が富士ゼロックスのプレミアムパートナーに5年連続認定
 - 5月 JFE Shoji Steel America, Inc.がIEEE(電子・電気技術学会)による変圧器業界の展示会「The 2016 IEEE PES T&D Conference & Exposition」に出展
JFE 商事テールワンがミャンマーからの研修生受け入れを実施
 - 6月 Central Metals (Thailand) Ltd.がKang Yong Electric Public Co., Ltd.より2年連続で優秀サプライヤー賞を受賞
 - 7月 ベトナムJFE 商事会社にハティン支店を新設
 - 8月 JFE 商事造船加工が創立10周年記念式典を開催
川商フーズが日本水産と共同で香港Food Expo2016に出展
インドネシアの伸線加工会社PT. Mega Pratama Ferindoに出資
 - 9月 阪和工材が吉川工場の屋根に太陽光発電を導入
JFE 商事鉄鋼建材がワイビーテクノと共同出資でベトナム北部に鉄筋加工販売会社JY Steel Processing Vietnam Co., Ltd.を設立
 - 10月 インドネシア・パダンのPT. Jakarta Eco Tuanlagaとヤシ殻(PKS)出荷の包括提携を実施
JFE 商事造船加工の構内参加企業に製缶・船舶機装品を製造する京泉工業が参入
 - 11月 JFE 電磁鋼板の100%子会社化を決定
 - 12月 JFE 商事鉄鋼建材が鉄骨工事を請け負った呉市新庁舎が『月刊近代建築』に掲載
- 2017年**
- 2月 ベトナムの大手冷延・メッキ鋼板製造メーカーTon Dong A Corporationに出資
 - 3月 関西大手コイルセンター・近江産業への出資を決定

業界トップの造船力へ

造船業界のリーディングカンパニーを目指し、
「技術」と「ものづくり」で
社会の発展に貢献します

「開発・技術力」「営業力」「研究設備」など、
国内造船会社では最大級の陣容と規模を活用し、商品ラインアップの拡充を
図るとともに、省エネ・環境負荷低減技術の開発にいち早く取り組み、
お客様から高い評価をいただいております。
今後もお客様のニーズに応える優れた性能と品質の船を
タイムリーに提供し、国内海事クラスターの一員として、
海上物流と海上安全に貢献してまいります。



ジャパン マリンユナイテッド 株式会社
代表取締役社長 (CEO)

三島 慎次郎

大型省エネコンテナ船“NYK BLUE JAY”引き渡し

呉事業所で建造した14,000 TEU型省エネコンテナ船シリーズの1番船、NYK BLUE JAY。JFE スチールと共同開発した極厚高張力鋼「YP460」を採用するなどして、コンテナ積載能力を極限まで高めることで、同クラスで業界一の輸送能力を実現しました。また、JMU独自の省エネ装置を採用し、主機関には高効率の電子制御エンジンを搭載しており、高い省エネルギー性能を発揮するとともに、フレキシブルな運航を実現しています。



ヘリコプター搭載護衛艦「かが」引き渡し

2017年3月、防衛省向けヘリコプター搭載護衛艦(DDH)「かが」を引き渡しました。本艦は、基準排水量19,500トン全通甲板型ヘリコプター搭載護衛艦「いずも」型の2番艦であり、護衛艦「ひゅうが」「いせ」の建造を通じて得られた技術・経験を基に、航空機運用の中核艦機能と国際平和協力活動などにおける洋上拠点となる輸送機能を強化。ヘリコプター5機分の発着艦スポットを備えています。



最新鋭の低燃費・低CO₂排出自動車運搬船竣工

統合により充実した開発・設計力を武器に取り組んだ戦略商品の建造が各事業所でスタートしました。2016年2月には有明事業所で建造した川崎汽船向けの自動車運搬船(PCTC)の1番船“DRIVE GREEN HIGHWAY”を引き渡しました。パナマ運河拡張に対応した幅広新船型の次世代型自動車運搬船です。積載車両数を大幅に増加しながら、低燃費技術を採用し、CO₂排出量を削減しています。

JAPAN MARINE UNITED HIGHLIGHT 2016

2016年

- 6月 次世代省エネ型VLCC 1番船“GEM NO.1”引き渡し
- 7月 海の日イベントを横浜事業所磯子工場で開催
5MW風車搭載浮体式洋上風力発電設備「ふくしま浜風」を福島沖に設置
平成28年度計画イージス護衛艦(28DDG)を受注
- 9月 フィリピン共和国運輸通信省向け多目的船1番船引き渡し
- 11月 海上保安庁向け1,000トン型巡視船「もとぶ」引き渡し
日本政策投資銀行より環境格付取得

2017年

- 2月 海上自衛隊における最大級のFRP製掃海艦「ひらど」進水
- 3月 海上自衛隊における最大のFRP製掃海艦「あわじ」引き渡し
ヘリコプター搭載護衛艦「かが」引き渡し

人材力の強化

多様な人材の確保と育成

JFE グループは、全ての人材がその能力を最大限発揮できる環境を整え、第5次中期経営計画を推進していくため、「JFE グループ人材マネジメント基本方針」を2015年4月に制定しました。また、2016年9月には、安全で魅力に富み、働きがいのある職場の実現と、多様な人材がその能力を最大限に発揮できる環境の整備を強力に推進するため、「JFE グループ健康宣言」を制定しました。

JFE グループ人材マネジメント基本方針

- ① 人権の尊重と公平・公正な人材マネジメントの推進**
すべての社員の人権を尊重するとともに、JFE グループ行動規範、企業行動指針の精神を実現する人材を育成し、公平・公正な人材マネジメントを行う。
- ② 「人を育てる企業風土」の醸成と「働きがいのある職場」の構築**
双方向のコミュニケーションの充実により、風通しの良い、人を育てる企業風土を醸成し、安全で魅力に富み、働きがいのある職場環境を構築する。
- ③ ダイバーシティの推進**
女性・外国人・高齢者・障がい者等を含めた多様な人材が、その能力を最大限に発揮し活躍できる環境を整える。
- ④ 優秀な人材の確保および育成の着実な実施**
複雑化・多様化する変化の激しい経営環境のもと、グローバル競争を勝ち抜くため、多様かつ優秀な人材を安定的に採用し、技術力・現場力の強化に必要な技術・技能の蓄積と伝承、グローバル人材の育成を着実に実施する。

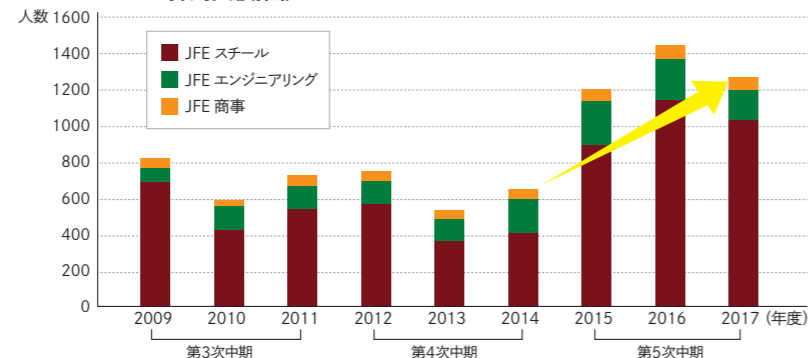
JFE グループ健康宣言

- ① 企業理念の実現のためには、社員一人ひとりの安全と健康は欠くことができないという認識のもと、すべての社員がいきいきと働くことができる職場を実現していきます。**
- ② 会社と健康保険組合が一体となって、社員とその家族の心と身体の健康保持・増進に向けたあらゆる段組みを進めていきます。**
- ③ 安全と健康を最優先する意識の醸成を図り、社員一人ひとりが自立的に活動を実践する健康文化を構築していきます。**

多様な人材の確保

JFE グループの持続的成長を図り、グローバル競争を勝ち抜くため、優秀な人材を安定的に採用してきました。採用ソースも多様化し、女性・外国籍従業員の採用および中途・通年採用も積極的に実施しています。

■ JFE グループ採用実績推移



人材の育成

JFE グループは、製造基盤整備や海外事業展開などの経営課題に対応するため、「人材の育成」を最重要施策のひとつと位置付け、様々な取り組みを推進しています。



人材育成と技能伝承

JFE グループでは、従業員一人ひとりの能力向上と、従業員の大幅な世代交代に対応した技能伝承に重点を置き、グループの総力を挙げて人材の育成に取り組んでいます。

◆グループ各社における主な取り組み

JFE スチール

技能評価システムリフレッシュによる技能データ活用の推進

製造現場における技能評価システムをリフレッシュし、定量的な技能レベルを効果的に分析・活用。非正常作業など技能レベルが相対的に低い技能に対し、熟練技能を有する専任講師(テクニカルエキスパート)が集中的に実地指導を行うなど、集積した技能データと有機的に連動した教育を図っています。

JFE エンジニアリング

自主選択型の制度と研修で潜在能力を覚醒

社内公募によって希望する仕事に就ける「ジョブチャレンジ制度」を導入し、各従業員がもつ潜在能力の顕在化を図っています。また、場所・時間を選ばず、社員それぞれが自分のニーズにあわせて自主的に研修できる選択型オンライン研修を積極導入。階層別や語学など幅広い人材育成に活用しています。

JFE 商事

コミュニケーションスキル研修の強化

コミュニケーションスキルの向上・強化を目的として、相手に伝わる手法を学ぶ「クリティカルシンキング研修」や、商談や会議を円滑に遂行させる「ファシリテーション・ネゴシエーション研修」を実施しています。

グローバル人材の育成

海外事業の拡大を推進し、複雑化・多様化するグローバル競争を勝ち抜くために、グローバル人材の育成は必要不可欠です。外国籍の総合職従業員および海外現地スタッフの採用・育成を強化していくとともに、日本人の従業員に対する海外留学・研修の充実だけでなく、若手従業員を積極的に海外派遣することによって実務経験を通じた人材育成を進めています。

■ 各社の主なグローバル人材育成制度

項目	事業会社		
	S	E	T
海外留学制度	●	●	●
短期海外語学研修	●	●	●
若手社員海外派遣	●	●	●
海外ナショナルスタッフ研修制度	●	●	●
海外学生インターンシップ	●	●	

S:JFE スチール E:JFE エンジニアリング T:JFE 商事



ダイバーシティの取り組み

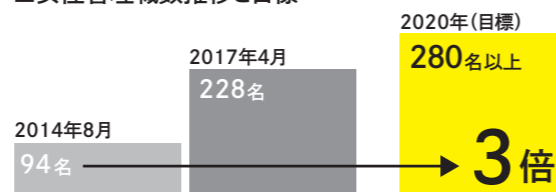
JFE グループは、ダイバーシティ推進を重要な経営課題のひとつと位置付けています。女性や外国人、異なるライフスタイルや家庭状況など、多様な背景を持つ従業員の能力を最大限に引き出すための環境整備を推進しています。



女性活躍推進

各社のダイバーシティ推進室を中心に、女性従業員の積極的な採用や女性の活躍を推進する様々な施策を導入しています。さらに女性の活躍を着実に推進するため、JFE グループとして2020年には女性管理職の人数を2014年度比で3倍とする目標を設定しています。

■女性管理職数推移と目標

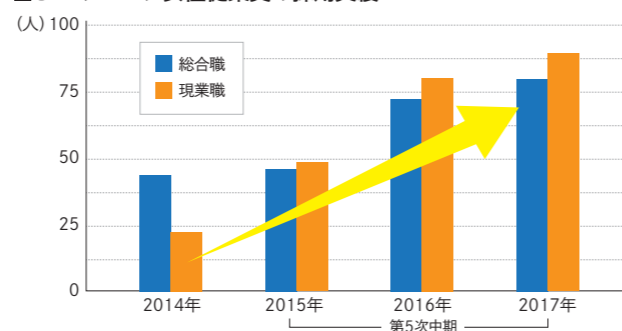


◆製造現場における女性活躍推進

総合職だけでなく、製造現場における女性の採用も積極的に推進し、女性が働きやすい職場環境の整備に加えて、現場の作業環境や工具の改善を行い活躍領域の拡大も進めています。また個人のライフスタイルと会社生活を両立できるよう、法定を上回る両立支援制度の充実や企業内保育所(JFE エンジニアリング「JFE 保育園 こどもの森」、JFE スチール「うみかぜ南町保育園」)の設置など、様々な施策を展開しています。



■ JFE グループ女性従業員の採用実績



◆キャリア研修の取り組み

JFE スチール

女性従業員のキャリア意識の醸成を促す研修を実施するとともに、積極的な管理職への登用や配置領域の拡大を図っています。また上司向けには、育児などを行いながら働く従業員のマネジメントに関する研修を実施し、キャリア形成とライフイベントの両立を実現するための施策を拡充しています。

JFE エンジニアリング

採用活動にあたっては、異業種経験者など多様な個性や価値観を持つ人材を積極的に実施。女性活躍推進に関しても、人事制度による業務別の従業員区分を廃止し、女性従業員のキャリアアップを積極的に進めています。

JFE 商事

「性別や国籍など属性にとらわれない多様な人材の活用と多様な働き方」を推進しており、女性従業員の管理職への積極的な登用や職域拡大、職掌転換で活躍の場を拡大するとともに、育成プログラムの充実などでキャリア開発を支援しています。

働き方改革の推進

少子高齢化が進み労働力人口の減少が見込まれる中、一層の女性従業員の活躍支援、社員ニーズの多様化といった様々な経営課題に取り組むためには、これまでの働き方を抜本的に見直し、高い生産性で新たな価値を創造しながら、従業員一人ひとりが仕事に誇りと働きがいを感じられる働き方の実現が不可欠です。各社において、システム化の推進、ITツールの活用を中心とした業務改革に加えて、ワーク・ライフ・バランスの推進など、より柔軟な働き方の実現に向けて、様々な取り組みを推進・展開しています。

◆グループ各社の主な取り組み

JFE スチール

製造基盤整備や海外展開などの経営課題への対応や、働き方に対する社員ニーズの多様化などの課題への取り組みをさらに加速すべく、2017年を「ワークスタイル変革元年」と位置付け、新たな施策を始めました。ワークスタイルの変革を進めることで、多様な人材がその能力を最大限に発揮できる組織風土をつくり上げていきます。

- ① 個人別定時退社日の設定
- ② 勤務間インターバルのトライアル
- ③ 年次有給休暇の取得促進
- ④ 在宅勤務制度のトライアル
- ⑤ 男性の育児休業取得促進

JFE エンジニアリング

「早く出社して早く帰る」風土醸成のため、就業時間を8時から16時45分とし、20時以降の残業を原則禁止。また、あらかじめ上司と休みの計画を作成する「働き方計画表」の活用や、有給取得奨励日・定時退社日の設定などを推進しています。さらにシステム化を中心とした「SUPER SHAPE-UP」活動で業務改革を進めています。柔軟な働き方を可能とする制度としては、2017年4月にテレワーク制度を導入。在宅勤務に加えて、新横浜にサテライトオフィスを開設し、トライアル運用を開始しました。

JFE 商事

「Change of Work Time(ワークタイムの変化)」として、毎週水曜日の定時退社デーや22時以降の深夜就業を禁止することで、時間外労働の削減に努めています。また、年次有給休暇の取得促進、2016年4月から、コアタイムを11時～14時としたフレックスタイムの拡充、育児・介護など時間的制約がある社員に対し、在宅勤務制度のトライアルを実施するなど、多様な働き方への取り組みも強化しています。

項目	事業会社		
	S	E	T
フレックスタイム制の導入	●	●	●
年休取得奨励日の設定	●	●	●
定時退社の促進	●	●	●
在宅勤務トライアル	●	●	●
サテライトオフィス勤務トライアル		●	



なでしこ銘柄に選定

グループ各社による女性活躍推進の取り組みが評価され、経済産業省と東京証券取引所が共同で女性活躍に優れた企業として投資家に紹介する「なでしこ銘柄」に選定されました。当社の同銘柄選定は、2年ぶり3回目となります。



CSR

Corporate Social Responsibility



持続可能な社会の実現のために

JFEグループの「技術優位性」と「多様な人材力」で
持続可能な社会の構築に貢献します。

従業員一人ひとりの「挑戦。柔軟。誠実。」が、JFEグループを成長させる。
そのプロセスは世界最高の技術力となって、社会の発展と地球環境の保全に寄与します。

社会の発展

お客様・お取引先様とともに

各種認証の取得やマネジメントシステムの整備に加え、お客様と一体となった商品開発施設を開設するなど、ニーズに基づく高品質な商品・サービスの提供を通じて、お客様の競争力向上に貢献します。



カスタマーズ・ソリューション・ラボ (CSL)

株主・投資家の皆様とともに

適時・適切な会社情報の提供を重視し、即時性の高いウェブサイトを活用しているほか、決算発表の早期化に努めています。また、事業活動への理解を深めていただくため、工場見学会やIR説明会を開催しています。



株主様工場見学会

地域・社会の皆様とともに

地域社会の発展に貢献するため、製造拠点を開放してのイベントや出前授業などを実施しています。また大学研究助成や国内外の青少年育成支援に積極的に取り組むなど、様々な社会貢献活動を継続的に実施しています。



高校生のキャリア教育受け入れ

従業員とともに

多様な人材が活力を持って働ける環境を目指し、ワーク・ライフ・バランスの推進や両立支援制度の整備、安全で働きがいのある職場の実現、一人ひとりの能力向上と技能伝承、健全な労使関係の継続などに取り組んでいます。



事業所内保育所で過ごす児童

地球環境の保全

地球にやさしいJFE

世界最高の技術をもって、製品を製造する過程での環境負荷を低減するとともに、環境に配慮した製品やサービスを提供することで、温室効果ガス排出削減、資源循環や生物多様性保護など、環境保護に貢献しています。



フェロコークス製造設備

くらしを支えるJFE

JFEグループの技術は、皆様の生活を支える道路やごみ処理などの社会インフラの分野にも活かされています。このような技術を通じて、皆様のくらしを下支えすると同時に、環境負荷の低減にも貢献しています。



練馬清掃工場 (都市ごみ発電プラント)

身近にあるJFE

JFEグループの技術は、皆様が日常的に利用する車や駐輪場でも、目にすることができます。このような身近な場面でも、JFEグループの技術は環境負荷を低減しており、皆様一人ひとりの省エネ活動・環境保護活動にも役立っています。



サイクルツリー®

「攻めのIT経営銘柄」に3年連続で選定



JFEグループは、中長期的な企業価値の向上や競争力強化のためにITの積極的活用に取り組んでいる企業として、経済産業省と東京証券取引所が共同で選定する「攻めのIT経営銘柄」に3年連続で選ばれました。

■JFE ホールディングス および 連結子会社

(億円)

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
経営成績(会計年度)					
売上高	31,891	36,668	38,503	34,317	33,089
営業利益	398	1,533	2,225	906	967
金利前経常利益 ^{※1}	665	1,876	2,455	765	973
経常利益	522	1,736	2,310	642	847
親会社株主に帰属する当期純利益	395	1,023	1,393	336	679
キャッシュ・フロー(会計年度)					
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,870	2,548	2,973	2,671	1,854
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,636	△1,640	△2,163	△1,373	△1,637
フリー・キャッシュ・フロー ^{※2}	1,234	907	810	1,297	217
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,475	△1,055	△782	△1,445	△181
財政状態(会計年度末)					
総資産	41,075	42,417	46,394	42,348	43,360
有形固定資産	16,068	15,991	16,295	16,271	16,508
純資産	15,967	17,459	19,900	18,579	19,218
借入金・社債等残高	15,963	15,340	15,017	13,793	13,754
設備投資状況その他					
設備投資額	1,796	1,757	2,259	2,125	2,347
減価償却費	1,940	1,813	1,760	1,779	1,826
研究開発費	336	311	324	351	355
粗鋼生産量(万トン)	3,068	3,158	3,104	2,975	3,041
連結従業員数(人)	57,044	57,210	58,856	59,460	60,439
財務指標					
売上高経常利益率(ROS) ^{※3}	1.6%	4.7%	6.0%	1.9%	2.6%
総資産金利前経常利益率(ROA) ^{※4}	1.6%	4.5%	5.5%	1.7%	2.3%
自己資本利益率(ROE) ^{※5}	2.7%	6.3%	7.7%	1.8%	3.7%
自己資本比率	37.9%	40.1%	41.8%	42.6%	43.0%
D/E レシオ ^{※6}	76.9%	67.9%	59.0%	56.9%	51.4%
1株当たり情報					
当期純利益(円)	71.20	177.44	241.60	58.36	177.81
純資産(円)	2,700.83	2,950.61	3,362.22	3,128.36	3,235.88
配当金(円)	20	40	60	30	30

※1 金利前経常利益=経常利益+支払利息

※2 フリー・キャッシュ・フロー=営業活動によるキャッシュ・フロー+投資活動によるキャッシュ・フロー

※3 売上高経常利益率(ROS)=経常利益/売上高×100

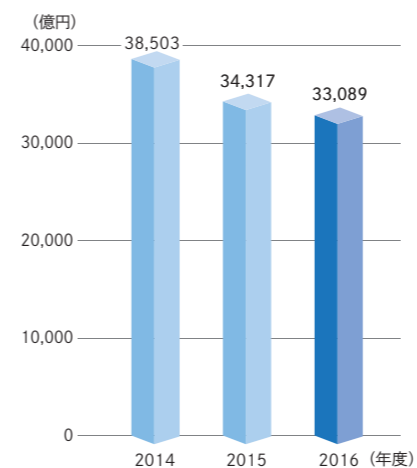
※4 総資産金利前経常利益率(ROA)=(経常利益+支払利息)/期中平均総資産×100

※5 自己資本利益率(ROE)=当期純利益/期中平均自己資本×100

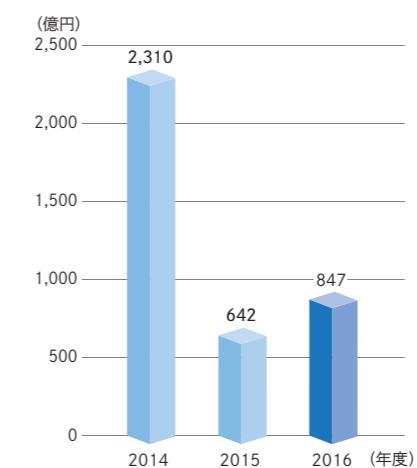
※6 D/Eレシオ=借入金・社債等残高/自己資本×100 但し、格付評価上の資本性を併せ持つ負債について、格付機関の評価により、一部を資本に算入。

【財務情報】株主・投資家の皆様へ <http://www.jfe-holdings.co.jp/investor/>

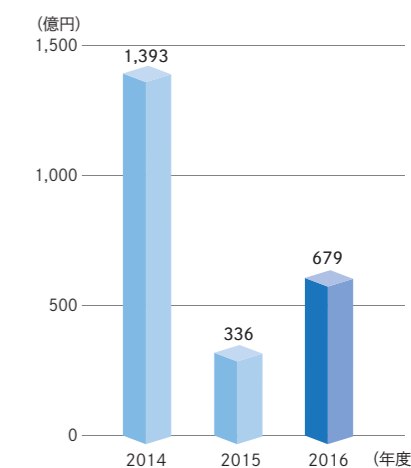
【売上高】



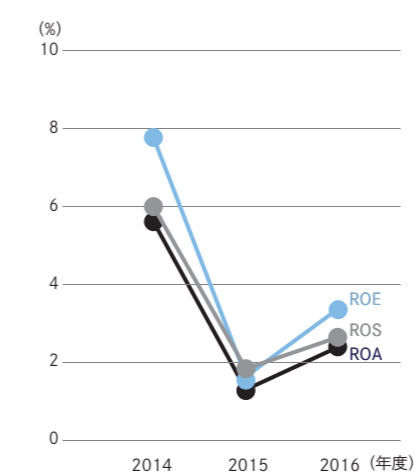
【経常利益】



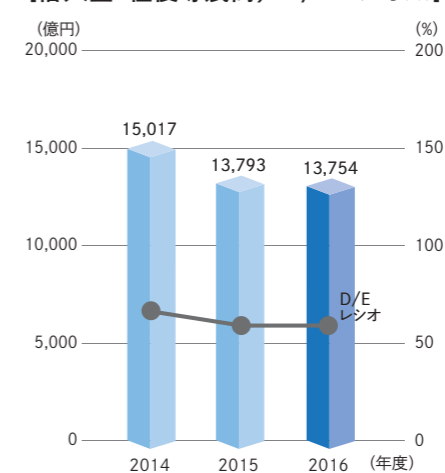
【親会社株主に帰属する当期純利益】



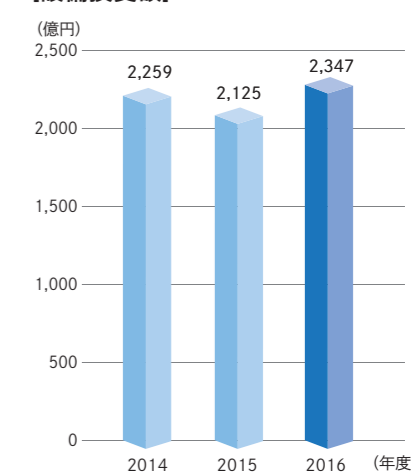
【ROS^{※3}/ROA^{※4}/ROE^{※5}】



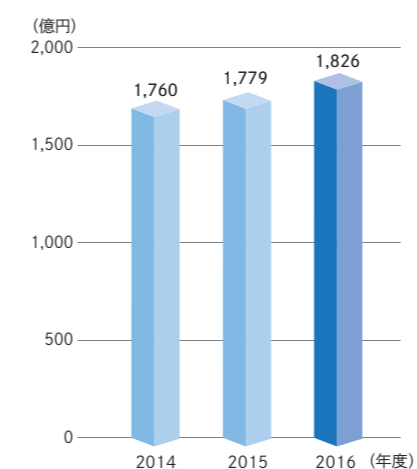
【借入金・社債等残高/D/Eレシオ^{※6}】



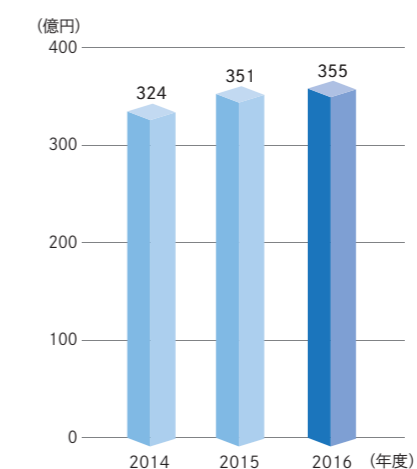
【設備投資額】



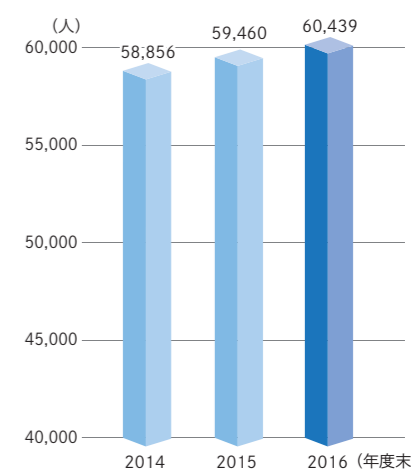
【減価償却費】



【研究開発費】



【連結従業員数】



■会社概要 (2017年4月1日現在)



英文名称
JFE Holdings, Inc.

[本社所在地] 〒100-0011 東京都千代田区内幸町二丁目2番3号
[電話] 03-3597-4321 (代表)

[設立年月日] 2002年9月27日
[資本金] 1,471億円
[URL] <http://www.jfe-holdings.co.jp/>

■事業会社・主要グループ会社 (2017年4月1日現在)

鉄鋼事業

JFE スチール 株式会社

[本社] 東京都千代田区
[売上高] 23,491億円 [従業員数] 44,395名

国内グループ会社	海外グループ会社
JFE ミネラル(株)	Nova Era Silicon S.A.
水島合金鉄(株)	Thai Coated Steel Sheet Co., Ltd.
JFE マテリアル(株)	Thai Tinplate Manufacturing Co., Ltd.*
千葉リバーメント(株)	JFE Steel Galvanizing(Thailand)Ltd.
水島リバーメント(株)	Philippine Sinter Corporation
JFE 精密(株)	PT.JFE Steel Galvanizing Indonesia
JFE プラリソース(株)	JFE Steel Australia Resources Pty. Ltd.
JFE 条鋼(株)	Nucor-JFE Steel Mexico, S. Der. L. Dec.V.*
JFE 建材(株)	California Steel Industries, Inc.*
JFE 鋼板(株)	Hojalata Y Laminados S.A.*
JFE 溶接鋼管(株)	東国製鋼*
JFE コンテナ(株)	福建中日達金属有限公司*
JFE 大径鋼管(株)	渤海能克鑽杆有限公司*
ガルバテックス(株)	広州JFE鋼板有限公司*
JFE 継手(株)	内蒙古オールドスEJMマンガン合金有限公司*
JFE チューブ(株)	嘉興JFE精密鋼管有限公司*
JFE テクノワイヤ(株)	上海宝武杰富意清潔鉄粉有限公司*
リバー Steele(株)	JSW Steel Ltd.*
JFE 鋼材(株)	Thai Cold Rolled Steel Sheet Public Co., Ltd.*
大和鋼帯(株)	P.T. Sermani Steel*
ジェコス(株)	Perusahaan Sadur Malaysia(Perstima)Bhd.*
JFE プラントエンジニア(株)	JFE Steel Tubular Technical Center Pte. Ltd.*
JFE アドバンテック(株)	J-Spiral Steel Pipe Co., Ltd.*
JFE シビル(株)	Agrimeco & JFE Steel Products Co., Ltd.*
(株)JFE 設計	Al Gharbia Pipe Company*
JFE 物流(株)	
JFE ウェストテクノロジー(株)	
(株)JFE ウイング	
JFE テクノリサーチ(株)	
JFE システムズ(株)	
JFE ケミカル(株)	
JFE ライフ(株)	
JFE 東日本ジーエス(株)	
JFE 西日本ジーエス(株)	
JFE アップル東日本(株)	
JFE アップル西日本(株)	
品川リフラクトリーズ(株)*	
日本鋳造(株)*	
日本鋳鉄管(株)*	
(株)エクサ*	
瀬戸内共同火力(株)*	
(株)JFE サンソセンター*	
水島エコワークス(株)*	
エヌケーケーシームレス鋼管(株)*	

エンジニアリング事業

JFE エンジニアリング 株式会社

[本社] 東京都千代田区 [横浜本社] 神奈川県横浜市
[売上高] 4,261億円 [従業員数] 9,166名

国内グループ会社	海外グループ会社
アーバンエナジー(株)	JFE Techno Manila, Inc.
あすか創建(株)	JFE Engineering (M) SDN. Bhd.
ジャパン・パイプライン・エンジニアリング(株)	PT. JFE Engineering Indonesia
JFE アーバンリサイクル(株)	JFE Engineering India Private Limited
ジャパン・リサイクル(株)	Standardkessel Baumgarte Holding GmbH
(株)日本リサイクルマネジメント	J&M Steel Solutions Company Limited
JFE 環境サービス(株)	東潔環保科技(上海)有限公司*
JFE アクアサービス機器(株)	
北日本機械(株)	
JFE レールリンク(株)	
JFE 環境(株)	
JFE テクノス(株)	
富士化工(株)	
東北ドック鉄工(株)	
JFE ビジネスサポート横浜(株)	
(株)三重データクラフト	
JFE キャリアナビ(株)	
(株)Jファーム*	
ジャンボントネルシステムズ(株)*	
スチールプランテック(株)*	

商社事業

JFE 商事 株式会社

[本社] 大阪市 [東京本社] 東京都千代田区
[売上高] 16,710億円 [従業員数] 6,838名

国内グループ会社	海外グループ会社
JFE 商事電磁鋼板(株)	広州川電鋼板製品有限公司
JFE 商事鉄鋼建材(株)	東莞川電鋼板製品有限公司
JFE 商事鋼管管材(株)	浙江川電鋼板加工有限公司
JFE 商事薄板建材(株)	江蘇川電鋼板加工有限公司
川商フーズ(株)	JFE Shoji Steel Philippines, Inc.
JFE 商事エレクトロニクス(株)	Central Metals(Thailand)Ltd.
JFE 商事コイルセンター(株)	Steel Alliance Service Center Co., Ltd.
新潟スチール(株)	New Bangpoo Manufacturing Co., Ltd.
長野製罐(株)	JFE Shoji Steel Vietnam Co., Ltd.
東洋金属(株)	JFE Shoji Steel Hai Phong Co., Ltd.
JFE 商事テールワン(株)	JFE Shoji Steel Malaysia Sdn. Bhd.
栃木シャーリング(株)	PT. JFE Shoji Steel Indonesia
北陸スチール(株)	JFE Shoji Steel India Private Limited
ケー・アンド・アイ特殊管販売(株)	Vest Inc.
大清興業(株)	JFE Shoji Steel America Inc.
大阪スチール(株)	Kelly Pipe Co., LLC
門田鋼材(株)	JS Biomass Resources Sdn. Bhd.
JFE 商事造船加工(株)	Kawarin Enterprise Pte. Ltd.*
JFE 商事甲南スチールセンター(株)	r.bourgeois JFE Shoji Magnetic Lamination, Inc.*
内外スチール(株)	Kuroda Precision Industries Malaysia Sdn. Bhd.*
JFE 商事プリキセンター(株)	Pro-SANKIN Tuberia de Precision, S.A.P.I de C.V.*
水島鋼板工業(株)	JY Steel Processing Vietnam Co., Ltd.
水島メタルプロダクツ(株)	
日本磁性材工業(株)	
(株)九州テック	
JFE 商事石油販売(株)	
JFE 商事マテック(株)	
JFE 商事資機材販売(株)	
JFE 商事ビジネスサポート(株)	
JFE 商事サービス(株)	
阪和工材(株)*	
北関東スチール(株)*	
(株)JKW*	
(株)MOBY*	
大阪鋼圧(株)*	
鐘光産業(株)*	
JFE コムサービス(株)*	
北長金日米建材(株)*	

造船事業

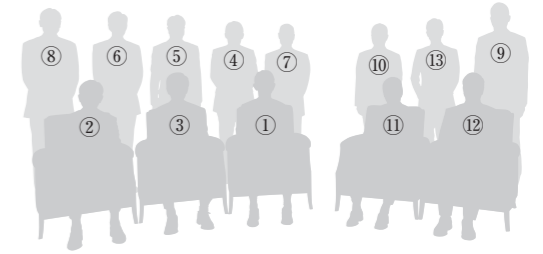
ジャパン マリンユナイテッド 株式会社

[本社] 東京都港区
[売上高] 3,190億円 [従業員数] 6,167名

国内グループ会社
(株)JMUアムテック
(株)IMC
JMUディフェンスシステムズ(株)

* 持分法適用会社
※売上高:2016年度実績
※従業員数:2017年3月31日現在

■ JFE ホールディングス 取締役、監査役および執行役員



取締役、監査役

- ①代表取締役 社長
林田 英治
- ②代表取締役
柿本 厚司
- ③代表取締役 副社長
岡田 伸一
- ④取締役
織田 直祐
- ⑤取締役
大下 元
- ⑥取締役
前田 正史*
- ⑦取締役
吉田 政雄*
- ⑧取締役
山本 正巳*
- ⑨監査役(常勤)
津村 昭太郎
- ⑩監査役(常勤)
原 伸哉
- ⑪監査役
伊丹 敬之*
- ⑫監査役
大八木 成男*
- ⑬監査役
佐長 功*

執行役員

- 社長
林田 英治 CEO
- 副社長
岡田 伸一 CFO、総務部、IR部、
財務部の統括、企画部の担当
- 専務
寺畑 雅史 総務部の担当
- 常務
大木 哲夫 IR部、財務部の担当

* 前田正史、吉田政雄、山本正巳は社外取締役
* 伊丹敬之、大八木成男、佐長功は社外監査役



JFE ホールディングス 株式会社

〒100-0011 東京都千代田区内幸町二丁目2番3号

<http://www.jfe-holdings.co.jp/>

Copyright © 2017 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved.

